

# 収穫後は「土づくり」をしましょう

## 1 ケイ酸は、高温年に効果が出る

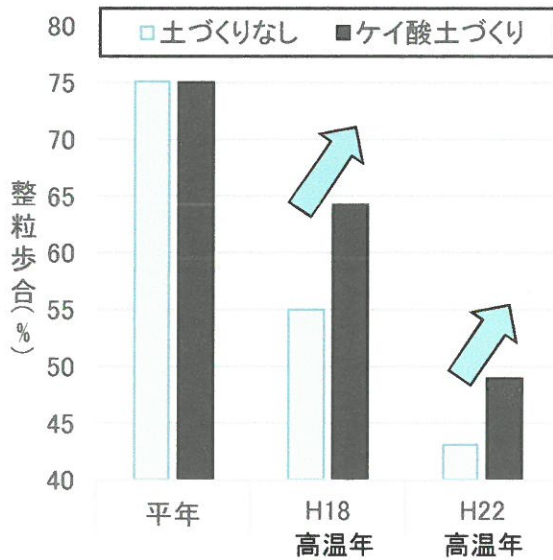


図 年次別土づくりの効果

平成18年や平成22年の高温登熟年は、品質が大きく低下しましたが、ケイ酸で土づくりを行ったほ場のほうが、品質が高くなりました。

毎年、継続して土づくりを行いましょ。

新潟県農業総合研究所作物研究センター平成28年度作物関係研究成果発表会資料を元に魚沼農業普及指導センターで作成

## 2 土づくりで、気象災害に強いイネ作り

○近年の土壌分析結果では、ケイ酸や遊離酸化鉄が不足傾向です。

○散布例① リン酸・ケイ酸・苦土・鉄・腐植酸を含む総合的な土づくり

魚沼ロマンアイアンスター：60～80kg/10a

○散布例② ケイ酸を中心にリン酸・苦土・加里・腐植酸を含む土づくり

魚沼ロマンソイルキーパー：40～60kg/10a

○散布例③ ケイ酸を中心に加里・苦土・リン酸を含む土づくり

越後の輝きソイル米スター：30kg/10a

○散布例④ 堆肥による土づくり

堆肥：400～800kg/10a

◆ほ場の土壌状態を確認するため、JAで土壌分析を行いましょ。(10月末まで受け付け)

## 新潟県からのお知らせ

### ～本年産米の放射性物質検査結果～

県では、本年産米の出荷に先立ち、玄米の放射性物質を検査しています。このたび、魚沼市内の本年産米を検査した結果、放射性セシウムは検出されなかったのでお知らせします。

今後、魚沼市産の米は、通常どおり出荷・販売できます。

皆様には、ご協力いただき、ありがとうございました。